



「静岡音楽祭」で4千人を魅了



中部航空音楽隊の躍動感ある演奏



4千人の観客が一体となったフィナーレ

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、1月27日（土）、グランシップ（静岡市）において行われた静岡県防衛協会主催「第37回静岡音楽祭」に協力した。

これは自衛隊の音楽隊などが出演する県内最大規模を誇る音楽祭であり、昨年に引き続き2部構成とし、第1部では今春県内から自衛隊に入隊・入校する若者への激励会を開催。100人を超える予定者が集まり、国会議員、市長、自衛隊指揮官などの来賓を前に、代表挨拶では高校3年生の鈴木敢統君（富士市出身）が「この国を守るに足る精神、体力を身に付けるよう精進します」と希望に満ちた言葉で決意を表明した。

第2部の音楽祭では、静岡県所在の自衛隊部隊と地元中学校の5団体が出演し、彩り豊かな音楽の饗宴となった。出演順に、板妻駐屯地第34普通科連隊らっぱ隊（御殿場市）は、観客席から大人数でらっぱ行進するなどステージを超えた迫力のある吹奏を披露し、陸上自衛隊富士学校音楽隊（駿東郡小山町）は、「見上げてごらん夜の星を」など馴染みのある曲を演奏した。また、自衛隊との架け橋として出演した静岡市立大里中学校吹奏楽部は、大観衆を前にディズニーメロデーなどを堂々と奏で、中学生らしい若さを演出した。

滝ヶ原駐屯地（御殿場市）の滝ヶ原雲海太鼓は、力強く生命力に溢れた生太鼓の迫力を伝え、航空自衛隊浜松基地中部航空音楽隊（浜松市）は、アンコール曲「セブテンバー」で観客と一体となって踊るパフォーマンスを披露しフィナーレを飾った。

静岡地本は、今後もさまざまな機会を捉え、自衛隊への理解・協力を得つつ、隊員募集に寄与する創意工夫を凝らし広報活動に努めていく。

中学生が地本部長にインタビュー



和やかな雰囲気で行われたインタビュー



熱心に質問をする中学生に応える本部長

自衛隊静岡地方協力本部長・定免克己一等空佐は、2月6日（火）、本部庁舎（静岡市）において静岡大学教育学部附属静岡中学校（同市）の1年生二人からインタビューを受けた。

これは、同校が生徒たちの将来を見通したキャリア教育の一環として、生徒が興味のある職場を訪問し、さまざまな職種で働く大人に仕事へのこだわりややりがいなどを直接インタビューすることにより、自らの夢の実現や仕事に対する考え方を確立するための第一歩とすべく実施しているものである。

最初は緊張した面持ちの二人であったが、本部長のユーモアあふれる会話に気持ちもほぐれ、次第に笑顔も多くなり「自衛隊に入隊して良かったこと」や「全国で勤務してきた中で大変だったこと」など生徒が事前に研究して準備した質問を投げかけていた。

質問を受けた本部長は、これまでの勤務経験や自らが防衛大学校に入るまでに取り組んでいたことについて一つ一つ丁寧に答えると、生徒たちは真剣な面持ちでメモをとり、中学校での成果発表の資料を収集するとともに、自らが描く夢の実現に向け確かな一歩を踏み出していた。

静岡地本は、今後も学校が計画するキャリア教育などを積極的に支援して自衛隊への興味や関心を育て、学生の描く職業選択の一つとなるよう活動を実施していく。